



平成28年11月9日

河川における魚類のへい死の発生について (第2報)

平成28年11月6日付けで発表しました「河川における魚類のへい死の発生について」に関して、原因の調査及び水質分析を実施していましたが、調査結果をお知らせします。

1. 調査結果

1) 現地で採取した水の分析結果

pH、DO、農薬類（162種類）について検査した結果は別紙のとおりです。

11月8日(火)に備前県民局環境課と瀬戸内市生活環境課職員で再度、現地確認した結果、農薬検出地点付近の住民が11月4日(金)に敷地内の溝に誤って農薬を流したことが判明。また、水質検査の結果、魚類致死濃度を超える農薬が検出されたことから、魚のへい死原因は、農薬の可能性が高いと推定された。なお、原因者に対し県及び市の関係部署が指導済み。

※分析機関：岡山県環境保健センター

2. 今後について

敷地内の溝に農薬と思われる沈殿物が溜まっていたもの及び作業によって生じた白濁水は全て除去済みであり更なる流出の可能性は排除されました。

瀬戸内市から農薬の廃棄や散布に関する注意を地元へ回覧する予定。市のHPでの周知も予定。

今後、特段の異常が見られない場合、本件で情報提供を終わります。

問	い	合	わ	せ	先
岡山三川水質汚濁防止連絡協議会 事務局 中国地方整備局 岡山河川事務所 電話 086-223-5196 (防災情報課直通) 【担当者】 副所長(調査) 下山 茂 (内線205) 防災情報課長 小畑 哲也 (内線281)					
なお、水質の分析結果に関する問い合わせは以下にお願いします。 岡山県環境文化部 環境管理課 電話 086-226-7301 【担当者】 楠奥(くすおく)、石井					
農薬に関する問い合わせは以下にお願いします。 岡山県農林水産部 農産課 電話 086-226-7422 【担当者】 片山					

平成28年11月6日に油杉川で発生した魚類のへい死事象
における河川水等の分析結果

1 分析結果

採水地点		No. 1 (油杉川に流入 する用水路)	No. 2 (油杉川)	No. 3 (油杉川)	No. 4 (油杉川)
採水日時		11月6日 12:50	11月6日 10:30	11月6日 9:40	11月6日 11:40
pH		7.3	8.9	7.5	7.8
DO(溶存酸素)(mg/L)		8.0	10.8	10.6	10.5
農 薬 類 (mg/L)	フェニトロチオン (MEP)	<u>0.16</u>	0.0015	0.0008	0.0007
	プロパニル (DCPA)	0.021	0.0020	0.0018	0.0017
	クロタロニル (TPN)	0.0047	0.0002	0.0001	0.0001
	フェントエート (PAP)	0.0023	0.0006	0.0006	0.0006
	DDT	<u>0.016</u>	<u>0.0006</u>	<u>0.0008</u>	0.0003
	DDD	0.0006	<0.0001	<0.0001	<0.0001
	その他農薬類 (156種類)	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず

ゴシック体の数値が魚類致死濃度以上の値

【参考】 検出された農薬の魚類致死濃度（急性毒性：LC50（半数致死濃度））

・フェニトロチオンの魚類致死濃度

0.00229 mg/L（カダヤシ：成魚の大きさが3～5cm程度の魚（外来種））

（出典：化学物質の環境リスク評価 第2巻（平成15年3月 環境省環境リスク評価室））

・DDTの魚類致死濃度

0.00045 mg/L（カダヤシ）

（出典：化学物質の環境リスク評価 第1巻（平成14年3月 環境省環境リスク評価室））

2 見 解

水質検査の結果、魚類致死濃度を超える農薬が検出されたことから、魚のへい死原因は、農薬の可能性が高いと推定された。

また、採水した時点では、溶存酸素量は十分であり pH はほぼ中性であるため酸素欠乏や酸・アルカリによる影響は考えられない。

採水地点

